

## 令和3年度第1回 電気設備科 学校関係者評価委員会

### 【出席者】

学校関係者評価委員 (敬称略 順不同)

乾 克彦 一般社団法人 大阪電業協会

岩本 浩一 株式会社キンコー 委員長

高松 光示 中央電設株式会社

渡邊 隆行 株式会社セイコー

本学教職員

木村 誠 学校長

松本 哲也 総務課班長

中本 智 就職課主任 電子工学科 2年担任

上田 良和 教務ユニット班長 電気設備科 2年担任

浅野 勇介 電気設備科 1年生担任

【日時】 令和3年7月30日 10時00分～11時00分

【場所】 大阪電子専門学校 3階 コワーキングスペース

### 【議案】

1. 委員長の任期について
2. 新型コロナウイルスの感染状況と感染対策状況の報告
3. 学生アンケート案に関する意見聴取

### 【議事録】

#### 1. 委員長の任期について

これまで委員長の任期を明示していなかったため、委員任期と同じ2年を提案し承認された。

#### 2. 新型コロナウイルスの感染状況と感染対策状況の報告

・学校内の感染症予防対策として、消毒やパーテーションを校内に設置し、国や大阪府の求める以上の対策を行っており、今後もさらなる強化を考えていく。

・電気設備科の実習は必須であり、経済産業省とやり取りから、学習効果をふまえながらのオンライン実習とした。緊急事態宣言開始時の5月中は教員の作業を配信する形で授業を行い、学生がそれを見てオンライン実習を実施した。6月1日～18日の期間までは、週に3日通学し、それ以外はオンライン授業を行いハイブリッド形式で授業を行った。6月19日以降は通常授業を行った。

・自宅作業は学生の精神的な負担が大きかったと学生からの意見があった。さらに学生の質問に答えられないなどの問題も発生した。これに対してグループ分けをして行うなどの工夫を行ったが、学生が同時に話すと、質問を聞き取れないなどの問題も生じた。今後、ZOOMの使い方についても試行錯誤を行っていく。

## 2. 学生アンケート案に関する意見聴取

・委員の意見として、今回コロナ禍において一番影響が大きいのは学生であり、学生は不完全燃焼であり、就職に対しても視野が狭い傾向があり、この環境を受け入れる体制を作るような工夫を行うべきとの意見を頂いた。授業だけでなく学生からの視点が必要になるので、どういうことから始めていけばいいかをアンケートに取る必要がある。

・委員の意見としては、会社を選ぶときの重視すべき点をアンケートする必要がある、電気設備科の学生は、電気工業業界を選ぶだけではないため、インターンシップに参加をして現場のイメージや職種を明確にしていくことが重要である。

・学校では電気設備科の特徴として、実習は補講があり実習を休んでまでインターンシップには参加しないのが現状である。しかしながら、企業側は参加時期が長期休暇期間に設定することが多いため、一昨年まではインターンシップ参加者はとても多かった。しかしながらコロナの影響により、昨年は行うことが出来なかった。本年度は、インターンシップを行う予定だったが、大学からの応募はほぼないという状況である。

・学校側の意見として電気設備科の学生は、内定が特に早いにもかかわらず内定後の勉強意欲が上がらないことがあるため、内定先の企業からインターンシップを体験させて頂きたいと考えている。インターンシップは学業に大いに役立つと考えている。

・委員の意見では、内定した学生を対象にインターンシップを行っており、内定者の半数はインターンシップに参加している状況であるとのこと。これにより電気設備を理解してもらっただけでなく、辞退の回避が期待できると考えている。今後も内定者インターンシップを行っていく。また企業としては就職希望先のアンケートを実施してほしいとのご意見を頂いた。

・学生は、1年生時では電気工事士になるか施工管理者になるか半数ずつとなっており、実際の就職活動時には八割が電気工事士を志望している。実習を重ねることによって電気工事は志望が増える傾向がある。これに対し施工管理は授業でイメージしにくいこともあり、工事担任者の科目免除はあるが、通信関係への就職希望者は少ない。

・委員の意見として電気工事と施工管理がより密接な関係にしなければ成立しないのにもかかわらず、業界を分けようとする傾向があり、工程管理や金銭的な関係も施工管理が行う流れとなりつつある。施工管理能力を身につけさせるのは会社の課題であり、これを学校に求めるのは難しいとの意見を頂いた。